

# 平成 29 年度第 1 回倉吉市総合戦略推進委員会 議事要旨

日時：平成 29 年 8 月 2 日（火）10：00～12：00

場所：大会議室（市役所本庁舎 3 階）

## 【資料】

- 資料 1 委員名簿
- 資料 2 倉吉市の人口動向（平成 28 年）
- 資料 3 総合戦略の主な評価ポイント（平成 28 年）
- 資料 4 倉吉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成 28 年度全項目評価
- 資料 5 総合戦略掲載関係事業リスト
- 資料 6 平成 28 年度第 3 回総合戦略委員会 意見対応一覧表
- 資料 7 平成 29 年度総合戦略推進に向けた主な取組・事業

## 1 開会

- ※出席者：福井委員、三木委員、山下委員、吉田委員、田村委員、河野委員、加藤委員、安田委員、名越委員、竹尾委員、山本委員、尾崎委員、山田委員、米田委員、田中委員、宇田川委員
- 欠席者：多田委員、松田委員、山脇委員、桑原委員、荒瀧委員、河越委員、桑垣委員、岩世委員、川村委員、大江委員、石村委員

## 2 委嘱状の交付及び委員の紹介

## 3 倉吉市の人口動向について

資料 2 について、総合政策課から説明を行った。

## 4 倉吉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況について

資料 3 及び資料 4 について、総合政策課から説明を行った。

## 5 意見交換

宇田川委員	・平成 28 年の社会減が 246 人と前年より拡大している。震災の影響か。
美船次長	・世代別に分析したところ、例年転入者数の多い 3、4 月に、20～30 代の転入が激減していた。震災以前に原因がある。
宇田川委員	・看護大が開学し、転入者数は増加するものと考えていた。
美船次長	・看護大・短大は着実に入学者を確保しているため、人口減の要因とはなり

	<p>えない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20～30代が倉吉に帰って来ない理由が転入者数減の要因であると考える。おそらく景気回復、就職において売り手市場である状況から、若者が倉吉にUターンしないのではないか。</li> <li>・転出においては、高卒の県内就職が希望に対して2年連続100%。外に出ないことには効果が出ている。</li> </ul>
石賀室長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短大・看護大生の約7割が県内出身者。他市町村から通学する学生も多いので、住基上の人口に反映されにくい。卒業生が市内就職する際に、倉吉市に住民票を移してもらえることを期待している。</li> </ul>
田村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倉吉市では、市内出身者が進学・就職等で転出するのをどの程度把握しているか。</li> <li>・把握できたら、Uターン促進の取組ができるのでは。</li> <li>・例えば、就職・転職活動を考える時期にはがきを送り呼びかけることもできる。</li> </ul>
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲットを把握することが重要。</li> <li>・以前成人式のときに連絡先を集めたことがあるが、情報のやり取りにまでつなげられていない。取組について考えていきたい。</li> </ul>
石賀室長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国勢調査の年齢区分別の増減を見ると、20～24歳が900人減少し、25～30歳が400人増加している。</li> </ul>
田村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計的に全体数を見るだけでなく、若者一人ひとりを細かく把握することで取るべき対策が見えてくることもあると思う。</li> <li>・民間でもできることがあればやりたい。</li> </ul>
福井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が都会に憧れて出ていく、都会の便利さに慣れて帰りづらいのは自然なこと。</li> <li>・Uターン促進の取組として、東京で移住カフェを開き、鳥取県の学生寮に住む学生を誘うのが良いかと考えている。</li> </ul>
山下委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分には3人子どもがいるが、生活は充実している。</li> <li>・一人っ子を持つお母さんに話を聞くと、母親としての生活から離れ自分の楽しみを重視するようになり、子どもはもう十分と思うようになったと言っておられた。</li> <li>・子どもが多ければもっと楽しいと思えたらいい。</li> <li>・倉吉市の子育てに関する支援はとても助かっており、充実感もあるので続けてもらいたい。2人目、3人目につながる施策としては良いと思う。</li> </ul>
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人目の出生数は増えているが、1、2人目が増えない。</li> <li>・子育てに喜びを感じている人は子どもを多く持つことがデータに表れている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもがいる幸せをどう伝えていくかが課題か。</li> </ul>
竹尾委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S C (スクールカウンセラー) やS S W r (スクールソーシャルワーカー) など、学校での心のカウンセリングは進んでいる。現在の小中学校の不登校者数は、その実績に比例して改善されているか。</li> </ul>
山中事務局 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正確な数は把握していないが、不登校、いじめの報告件数は増加している。</li> <li>・些細なことでもピックアップし対応する姿勢をとっているため。</li> </ul>
竹尾委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倉吉西中の地域コーディネーターをしているが、ここ数年で異常なほど不登校者数が増えている。他の学校も見たところ、カウンセラーの方は一生懸命動いている。</li> <li>・指標ではいい評価が得られているが、実際はサポートする人が足りていないのではないか。学校退職者の方も多くいらっしゃると思うがあまり姿が見られず、S C一人当たりの担当生徒数が多すぎる。</li> </ul>
山中事務局 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートの人数は言われたとおり、増えた方がありがたいと思っている。</li> </ul>
竹尾委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我々も、将来の子どもたちのために、少しでも明るい未来が開けるよう進めていきたい。</li> </ul>
山下委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市は学生の地元愛を育てる政策をしているが、子どもに尋ねると全く印象に残っていない様子。Uターンが少ない理由のひとつだと思う。</li> <li>・一度県外に出て、あちこち見た上で地元が良いと感じ戻ってきてくれることが一番良い。もっと地元愛を育てる取組を学校でできたらいい。</li> </ul>
山中事務局 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会で「倉吉風土記」という倉吉を紹介する本を制作した。それを中学1年生に全員配布し、土曜授業で地域に関わる授業を行っている。</li> <li>・結果、地域活動への参加が増え、挨拶もよくなりつつある。</li> </ul>
美船次長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに地域の企業の職場体験をしてもらうことが重要。</li> <li>・労働人口が減っていく中、市内の事業所にとっていかに人員を確保するかが大きなテーマ。子どもの頃から市内の事業所をよく知ってもらい、魅力を感じてもらうことも大事な取組である。</li> </ul>
徳丸企画振 興部長	<p>(尾崎委員へ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職に関して、短大卒業生の地元志向はあるのか。</li> </ul>
尾崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外から来る学生もいるが、地元に戻らず鳥取県で就職している学生もいる。</li> <li>・学生がまず考えるのは、自分がやりたいことにマッチングする企業があるかどうか。鳥取県に戻りたいという学生もいるが、最近では自分のしたいことを叶えてくれる企業に就職を決める学生が多い。</li> <li>・就職先(勤務地)については学生の意思を尊重している。</li> </ul>
徳丸企画振	<p>(山本委員へ)</p>

興部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近の地域経済の様子はどうか。</li> </ul>
山本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・K P I の評価が低いにもかかわらず、「実施済み」となっている事業が見られる。</li> <li>・資料によると、出生数や人口減の対策はできていることになっているが、このままだと人口減少を止めることはできない。</li> <li>・事業をマイナーチェンジするか、新たな対策を練らなければならない。</li> <li>・転出減を抑止する施策が不十分。</li> <li>・地域愛を育てるのは大事だが、一度出てしまうと帰ってきたい意識は薄れる。</li> <li>・地元採用率を上げるには、産官学で企業はどのような人材を必要としているかを話し合い、それを学校教育で取り入れる可能性について考えるなどの取組が必要。</li> </ul>
田中産業環境部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学の出出はなかなか抑えられない。</li> <li>・高校を卒業して地元就職させるには、学生のやりたいことと、地元企業が求める人材のマッチングが不十分であることを改善する必要がある。</li> </ul>
田村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひとづくり」について、働き盛りの人たちが介護をしなければならない現状も考慮した政策を実施してもらいたい。</li> <li>・最近では、女性が子育てを終え仕事を再開しても、介護のために仕事を辞めなければならないという声をよく聞く。</li> <li>・倉吉市の有効求人倍率は高いが人材不足となっている。企業に寛容性がないと雇用者がどんどん減っていく。</li> </ul>
徳丸企画振興部長	<p>(山田委員へ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨今の企業の雇用条件はどのような様子か。</li> </ul>
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人手不足の企業が多く、女性が働きやすい職場でないと人が集まらない傾向は県内でも顕著に見られる。</li> <li>・県の男女共同参画推進企業認定委員会をしているが、「女性が働きやすい」という認定を受けたい企業は増えている。</li> <li>・書類上はワークライフバランスや長時間労働の自制に向けた取組ができているということで認定しているが、実態もしっかり見ていかなければならない。</li> </ul>
田村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てと違い、介護を理由に仕事を休む・辞めるというのは言いづらく、「隠れ介護」と言われるようになっている。</li> <li>・隠れ介護についても分析し、サポートをお願いしたい。</li> </ul>
田中産業環境部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有効求人倍率についてはA評価になっているが、現時点の倉吉の有効求人倍率は1.4~1.5であまりにも高すぎる。人手不足の問題がある。</li> <li>・企業から人が集まらないということを聞いている。企業側も労働条件の改</li> </ul>

	<p>善については考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来、市としては労働政策に取り組んでこなかったのが、今後考えていきたい。</li> </ul>
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致の実績について、数年前に7社の企業誘致をしたことは評価するが、逆に古くからの企業が撤退している。</li> <li>・目新しいものも大切だが、古くからある倉吉の企業にも目を向け、商工会と連携し、支援をしてもらいたい。</li> <li>・誘致した企業の中には、市への寄附も多く行政的には評価が良くとも労働環境が劣悪なものもある。市が企業の労働環境にも注目していることを誘致企業に自覚してもらえよう、商工会と連携してアプローチできればと思う。</li> <li>・学生に地元に戻りたいという気持ちはあると思うが、実際に地元に戻る学生は少ない。都会との収入の差が大きいためか。</li> <li>・行政として、労働局に最低賃金を引き上げる意見書を送るなどの取組をしてもらいたい。</li> </ul>
田中産業環境部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の政策である企業立地補助金は、誘致企業だけでなく地元企業が事業拡大する時にも支払っている。</li> <li>・雇用人数についても誘致企業及び事業拡大した企業の雇用人数を対象とし、同じ政策を取っている。</li> <li>・前述補助金の対象とならない中小企業を支援していくため、他の相談団体とのネットワーク化に重点的に取り組みたい。</li> <li>・不法労働行為等がある場合には、基本的には団体交渉、労働委員会、裁判所で対応するものなのでコメントは控える。</li> <li>・企業が労働条件を改善する動きがある中で、行政の関わり方について検討する。</li> <li>・賃金について行政が関わるのは難しいが、要望等考えていきたい。</li> </ul>
徳丸企画振興部長	<p>(河野委員へ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業分野の指標や施策について意見をいただきたい。</li> </ul>
河野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定年帰農者の人数が27年度0名、28年度2名となっているが、この数は農協でもすべてを把握できない。</li> <li>・鳥取中央農協の事業は泊から赤碕までを含むため、倉吉のみの枠の中では考えない。農業政策の場合は、国の政策がストレートに入ってくるので、市との連携は考えにくい。</li> <li>・農業施策に関して、市農林課と他の自治体との温度差があるので、すり合わせをしてもらいたい。</li> <li>・人口関連の分析において、倉吉市だけでなく中部全体での人の移動もあわせて見るべき。</li> </ul>

加藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成や担い手という部分でかなり苦労している。</li> <li>・昨年 10 月に倉吉農高や倉吉総産にインターンシップをしてもらい、今年、高校卒業の新規採用者を 5 名採用した。</li> <li>・林業は 3 K（汚い、きつい、危険）のイメージがあるため、安全を重視しながら指導員を付けて若者を育成している。</li> <li>・作業員の平均年齢は以前より若返っているが、今後も担い手を増やしていきたい。</li> <li>・女性の参画は考えているが、山で働くことに従事しにくい。現在夫婦で子育てしながら働いている方がおられる。夫婦で働き、子育てをしながら短時間の労働である程度年収を得てもらえたらと思う。今後このような形で夫婦の受入をしていきたいと思い、説明会も開いている。</li> <li>・担い手に一番困っている。特に林業は専門的な技術が必要であり、短期間では身につかないので、長い目で見ながら人材を確保していきたい。</li> <li>・地元の学校での説明会を積極的に行いたい。倉吉市が中部の中心となり取り組んでもらいたい。</li> </ul>
田中産業環境部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに国の政策に左右される部分は非常に大きいのでなかなか独自施策を打ち出せず、苦慮している。</li> <li>・県独自の施策においては、県内又は他市町と合わせるよう努力している。</li> <li>・定年帰農者数については、平成 27 年度から市が独自で作った制度を活用している人数をカウントしている。中山間地を多く抱える倉吉市には様々な担い手が必要だろう思いつくった制度である。</li> </ul>
田村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よろず支援拠点の相談会を月 2 回図書館で行っているとあるが、相談件数は何件あるか。</li> </ul>
田中産業環境部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よろず支援の相談件数について、企業数は 27 年度 64、28 年度 89。相談者数は 27 年度 197 名、28 年度 457 名。</li> <li>・よろず支援の活動は積極的であり、相談数も多い。</li> </ul>
田村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館でしているので行こうという気持ちになるが、相談者と相談支援員の相性の問題と、はじめに相談して 1、2 か月経たないと専門家につないでもらえないことが課題となっている。そのあたりが機能していないのが自分たちにとって辛い。</li> <li>・直接専門家の意見を聞き、短時間で問題を解決したいと思っている。</li> <li>・F-BIZ のような機能を実施してもらいたい。</li> <li>・倉吉異業種交流プラザのメンバーも意見を出すことは可能。</li> <li>・倉吉商工会議所が策定する経営発達支援計画が国の認定を得られていないというのはどういうことか。</li> </ul>

田中産業環境部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よろず支援についてはなるべく早く次の専門家につなげられる方法を検討する。</li> <li>・現在、とっとり企業支援ネットワークに力を注いでいる。各種団体をネットワーク化し、今ある団体をフルに活用できる体制を考えている。</li> <li>・商工会議所の計画については、従前の事業を修正したものであるため目新しさがなく、認定に至らなかった。</li> </ul>
田村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月19日に淀屋で起業女子のセミナーをやるが、倉吉市や商工会議所の所管が明確でないため相談しづらい。</li> <li>・市職員もセミナーに来ていただき、是非生の声を聞いてもらいたい。</li> <li>・ビジネスプランコンテストを中止したのはなぜか。</li> </ul>
田中産業環境部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市のレベルで全国から募集することが非常に困難。</li> <li>・県が28年度に同様のビジネスプランコンテスト実施している。29年度については不明。なるべく県でいいアイデアを見つけてもらいたいと考えている。</li> </ul>
田村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市で出来ることを考えてもらいたい。</li> <li>・全国レベルが不可能ならば、市内の起業される方を対象にコンテストを行ってもいいのではないか。プレゼンの勉強会等を実施し元気を与えるという事も必要。</li> <li>・昨年、鳥取県で起業女子のコンテストを行ったところ盛り上がり、女性も華やかな気分になった。倉吉市民も多く参加していたので、そのような人を捉えて育ててもらいたい。</li> </ul>
田中産業環境部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何もしないのではなく、いろいろな形を考え検討したい。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よろず支援拠点について、相談件数は多いが、事業を継続していく、地元企業を大事にしていく事が大切。</li> <li>・起業者数の累計実績は増えているが、若者が開業した企業が2、3年後に続いているかどうか。</li> <li>・金融機関やよろず支援拠点を含め、地域を挙げて継続を支援する仕組みづくりが大切。</li> <li>・有効求人倍率は高いが、企業がしっかりしていないと人の受け入れはできない。</li> <li>・企業が一番求めているのは人材。人材育成やマッチングについての見極めが必要。</li> <li>・指標に表れていることより深いものがある。</li> <li>・よろず支援拠点とは連携を取っているもので、もっと積極的に金融機関から動く必要があると思うし、投げかけてもらいたい。</li> </ul>

田中産業環境部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営相談について、28年度は検討年度のため少ないが、29年度は増えている。いかに継続し支援していくかが大事なので、金融機関も巻き込んで総合的に支援していく体制を構築していきたいので御協力をお願いしたい。</li> </ul>
三木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よろず支援の件については同感。金融機関も連携を取り地域の起業や新しいビジネスの創造に取り組んでいかなければならない。</li> <li>・雇用と企業活動の活性化は非常に重要な問題だと思っている。地元のお客様から、店舗を構えたいが雇用が心配、製造業においては人材確保が出来るか心配などの声を聞く。</li> <li>・このように、雇用と企業活動の活性化には非常に重要な関係性がある。</li> <li>・社会減が続いているのは、学生のUターンが少ないことが大きな要因。背景として、国内全体の雇用情勢が関係している。</li> <li>・自分の子どもも進学で県外に出たがUターンはしない。やりたい事を求めて出て行くので、親は説得しづらい。</li> <li>・みなさんをお願いしたいのは、インターンシップの活性化。高校だけでなく、大学のインターンシップも実施していただきたい。また、農林業に限らず、サービス業等あらゆる職種のインターンシップを増やしてもらいたい。</li> <li>・倉吉は移住拠点として、全国屈指の住みやすいエリアであることをより強く発信していく必要がある。</li> <li>・移住者数のKPIの目標値を上方修正してはどうか。、また、30～40代あたりの家族をターゲットに取り組みを進めてはどうか。</li> </ul>
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護大学で取り組んでいるコミュニティリーダー養成事業の参加数は順調に伸びている。</li> <li>・昨年度は東部、中部、西部で行っていたが、東部や西部でも中部在住の方の参加も多い。本年度はターゲットを中部在住の方を中心とし、中部で2回開催したいと考えている。</li> <li>・人数は順調に増えているが、継続のための取組をどうするか考えている。</li> <li>・まちの保健室を13地区公民館で開催するに当たり、コミュニティリーダーを使って各地区で年に1回継続的にやっていきたい。28年度の評価はCだが、今後Aになる見込み。</li> <li>・学生ボランティア登録制度が廃止されたとあるが、今後どのような形で評価していくのか。</li> <li>・大学生が出るイベントの回数はどのイベントについて認定されているのか。看護大学の学生は公民館で実習をしており、公民館のお祭りや文化祭にもすべて参加しているがカウントされているのか。</li> </ul>
米田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちが普段見過ごしてしまっている見慣れたものが、外の人にとっては新鮮に感じられることもある。見直しをすれば新たな観光資源を見つけられ</li> </ul>



	<p>るかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先日NHKの番組でやっていたが、観光や少子化問題など、AI（人工知能）を使って課題解決法を模索してみても。人間の脳では10のアイテムしかつなげられないところ、AIでは100つなぐことができ、その分得られるアイデアの種類も多い。難しいとは思いますが、活用できれば多くの視点、新しい発想を得られる。</li> </ul>
名越委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定住人口を増やすためには、まずは交流人口を増やさなければならない。</li> <li>・観光ビジョンの策定について、辛口で恐縮だが、残念な思いもしている。</li> <li>・観光ビジョンの策定時に何度か意見を言わせてもらったが、大筋はなかなか変わらなかった。</li> <li>・観光ビジョンの目的に「観光に関する変化に対応していくこと」とあるが、それは当り前のことであり、それに対してどうするかということをやらなければいけない。</li> <li>・KPIについて、別の会議の数値をそのまま使っているが、もっと主体的な、観光ビジョンなりのKPIがあるべき。</li> <li>・これから観光ビジョンをもとに市担当者と民間が協力し事業実施することになるが、掲載事業を誰がどのように進めていくか、早急に示してもらいたい。</li> <li>・予算は市議会議員と相談してつくってほしい。</li> <li>・日帰りの旅行客をメインターゲットにするという話があったが、近隣の温泉の宿泊客が立ち寄る場合が多く、倉吉に泊まってもらわなければお金はあまり落ちない。まちなかに温泉がない中で、今一番ヒットしているレトロ&amp;クール、あるいはスポーツコンベンションを進め、観光客を呼んでもらいたい。</li> </ul>
安田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光ビジョンの策定に関わった方によく言われるのが、策定した方がいいが具体的にこれからどうするか分からないということ。作った後どうしていくのか、特に委員に伝える術があった方がいい。</li> <li>・観光商品の数を件数ではかるのは難しく、その商品を継続してもらうことが大切。新しく製作し件数を増やすことは簡単だが、継続して旅行者や個人に利用してもらう事が重要。頑張っていきたいと思うが人手も時間もかかる。</li> <li>・ひなビタのお客さんが観光商品を利用してくれて販路も広がってきているので、マイス協会として、その層にも対応できるような商品を作っていきたい。</li> </ul>

竹尾委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・今回、自分の言いたい事が半分以上言えた委員さんはいないのではないか。以前は分科会を開き、皆さんの様々な意見を取り入れて反映させられた総合戦略だったが、今回のやり方だとそれぞれの考えを全く言えず、残念。</li><li>・会議をやって終わりではなく、行動につなげられることが重要。我々の意見がどんどん言えるような時間をつくってもらいたい。</li></ul>
------	---

6 次回の開催日程

9月下旬開催予定。

7 閉会